

みどり戦略の推進パッケージ Ver2.0

令和5年6月
九州農政局宮崎県拠点

【取組方針】

- 消費者を意識した取組を推進。
- Z世代にも自分ごととして2050年に向けた消費スタイルを思考してもらう。
- 芽が出る取組を発掘し、優良事例として見える化し横展開。

ジュニア版広報誌「未来につなげよう!! てげがんばっちょる宮崎の農業」(仮称)7月発行

地域で生産を支える！ (生産現場での取組)

- 堆肥・食品残さの肥料・飼料(豚、養殖魚)活用を推進 (JA宮崎経済連グループ)
- 家畜ふん尿等を活用したバイオガスプラント事業を推進(新富町)
- 養殖漁業における人工種苗・配合飼料利用を推進 (宮崎県水産振興協会)
- 放置竹林を無償で伐採し、飼肥料に活用する取組を後押し(笹サイレージ)
- 在来種「みやだいず」の作付拡大 (排水対策や畑地化を推進(都城市、宮崎市))
- 県産小麦を学校給食用パンに利用するための産地づくり (収穫後の流通体制整備 (県学校給食会))

生産と消費をつなぐ！ (消費者への取組)

- G7宮崎農相会合で提供された「見える化」農産物の普及に向けたモデル実証の推進
- 高鍋・木城有機農業推進協議会の「高鍋・木城オーガニックビレッジ宣言イベント」に参加(6月25日)
- 綾町・えびの市有機農業推進協議会のみどり交付金による取組を支援
- 新富町で町民を対象にみどり戦略を出前講座(9月21日)
- コープみやざきの産地交流会に参加しみどり戦略を説明(5月27日約40名が参加)
- 市民農園活用者へみどり戦略を啓発(5カ所)

自分ごとにとらえる！ (将来への取組)

- Z世代にみどり戦略の出前講義を実施(6月23日宮崎大学生30名、反応を探るためアンケートも実施)今後、宮崎産業経営大学生にも実施
- 宮崎県農協青年組織協議会と消費者との意見交換をマッチングし、農業現場の状況を共有(消費者の理解醸成)
- 「綾オーガニックスクール」を後押し(6月10日開校式)

情報発信の強化！(優良事例を横展開)